

木質バイオ発電とは何か？ それは環境にやさしいか？

日本製紙のホームページを見ましたが、ニュースに関する項目は見当たりませんでした。関連する項目として、北海道で計画の木質バイオ燃料発電所に関する記事がありました。

勇払（北海道）バイオマス専焼発電事業について  
～日本製紙・勇払事業所の敷地内で、再生可能エネルギー普及拡大へ～

2019年05月10日

日本製紙株式会社

日本製紙株式会社は、双日株式会社と共同で、発電事業会社「勇払エネルギーセンター合同会社」を設立し、再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）を利用したバイオマス専焼発電事業を行うことで合意しました。

勇払エネルギーセンターは、当社北海道工場勇払事業所（北海道苫小牧市）の敷地の一部を利用して発電設備を設置する計画で、2020年3月に着工し、2023年1月の運転開始を予定しています。燃料は、主に海外から調達する燃料用木質チップとPKS（Palm Kernel Shell、パームヤシ殻）のほか、国内の未利用材を使用します。発電設備の運転および保守は当社が受託し、電力は北海道電力株式会社に販売する予定です。

北海道の発電所はバイオ燃料100%ですが、その多くを海外から調達となっています。岩国の発電所も燃料の100%を木質で賄うとしていますが、その内訳は現在不明です。北海道と同じであれば、その多くを輸入に頼ることになります。

国内資源を有効に利用してこそ「環境にやさしい」と言えると思うのですが、「温暖化ガス排出権購入」制度がありますが、本件はこれの変形と考えられます。

日本経済新聞 2019.5.18

**山口でバイオマス発電**  
日本製紙、木質で最大級

日本製紙は山口県岩国市で国内最大級の木質バイオマス（生物資源）発電所の建設を検討する。2024年にも稼働し、出力は10万キロワット超で総投資額は数百億円規模になる見通し。燃料に木質チップなどを使用し、生み出した電気は全量を電力会社などに販売する。主力の洋紙事業が縮小するなか、木質燃料を安定調達できる強みを生かし、バイオマス発電を新たな収益の柱に育てる。

パルプや洋紙を生産する同社の岩国工場に併設する。日本製紙は現在、石巻工場（宮城県石巻市）の隣接地でも出力約15万キロワットのバイオマス発電設備を運営するが、石炭と混ぜる方式のため燃料に占めるバイオマスの割合は3割程度。岩国の発電所では燃料の100%を木質で賄う方針。巨社は23年に北海道苫小牧市で出力7万5千キロワットのバイオマス発電所を稼働する計画も公表している。